先進地の公民館を見る

―春議員　研修会を弥彦で　9月15日―

地区館長

日ごろの公民館活動の実際について反省したり、また検討を加え、住民の要求とその活動が統一されたものでなければならないという観点から本年も先進地の視察、研修を行なった。

昨年諏訪町の公民館であったが、ここは活動内容よりむしろ施設（建物）設備であった。弥彦村公民館をたずねてみたのは、ことしは活動を中心に主なものを上げてみよう。

この他に特筆すべきことは広報活動に重点をおいている「広報やひこ」を発行し住民の政治意識を高め、学習意欲をもう一つ老人グループの活動である。年令六十才以上を対象にして、主として精神修養の面、レクリエーション、映画により根強い組織になっている。これからが楽しみといった状態である。

以上弥彦の実態を社会教育の面からあたってみたが、根本的には川口町と変りない。それぞれ特殊事情をもっている。観光の面、越後村の面を合わせもっているこれらの点を今后どのように教育の場に生かすかはおたがい考えねばならないと思う。

この研修に参加したメンバー次の通り。

公民館運営審議会委員（敬称略）

目黒寅吉、星野武夫、斉木直司、保科隆、吉田鳥正、関亀太郎、鈴木松次、中林只二、小西登久治、笹崎猛の各氏

地区館長

関平吉、大洞寅松、金子武、村山道雄の各氏

熱心に話し合いをする諸委員　地区館長

郷PTA研究会を省みて

参会者　川口中学校PTA　岩本生

九月十八日午前十時より木沢小（中）学校で北鳥沼郡PTA連絡協議会、川口町教育長を来賓に迎えて、町PTA連合会主催の川口郡PTA研究会が開かれた。

この研究会の目的は郡PTA研究会を強化し、地域の活動、運営の責任者が一方的に受身であったことを反省し、たきりぶりの会場（分科会）にかたよって傍観的な態度、質問等も不充分であったと言われる。従って、普通授業を休み全員参加の意気ごみ、折角多忙の時間を割いて参加されたお父さん方の研究会に対する質問の時間を与えずに、（司会等からの報告によれば）各単位PTAは何小出民的な事に満足してしまう事のない様に、常に地域社会の活動や生活や地域社会に対する高度的な学習を積み上げ、小さな欲求を満たす事のみの